

答申（案）の主な修正点（第7回審議会の審議を受けて）

	ページ・項目	修正前	修正後
1	≪P5≫ 2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性 (1) 門真のめざす教育	このような観点から、 <u>施設が一体となった小中一貫校(義務教育学校)は、9学年の子どもたちが共に過ごし、異年齢、異学年のつながりの中で育つことができる場所となり得るものであり、下級生にとっては、憧れの気持ちや将来の展望が持てるとともに、上級生にとっては、優しさや責任感が生まれるなど、双方にとって相乗効果があるものであり、「縦のつながり」を創るための有効な手段の1つであると考えられます。</u>	このような観点から、 <u>小中一貫校(義務教育学校)は、異年齢、異学年のつながりの中で育つことができる場所となり得るものであり、「縦のつながり」を創るための有効な手段の1つであると考えられます。下級生にとっては、憧れの気持ちや将来の展望が持てるとともに、上級生にとっては、優しさや責任感が生まれるなど、双方にとって相乗効果があると考えられ、とりわけ、施設一体型の小中一貫校(義務教育学校)は、9学年の子どもたちが同じ場所で共に過ごすということから、こうした効果がより一層高まると期待されます。</u>
2	≪P7≫ 2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性 (2) 門真のめざすこれからの学校づくり	第7回審議会資料(P7【図2】)参照	第8回審議会資料(P7【図2】)参照 ※図を1部修正
3	≪P8≫ 2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性 (2) 門真のめざすこれからの学校づくり ②これからの時代、これからの門真に対応した学校づくり	めざす <u>こ</u> ども像	めざす <u>子</u> ども像
4	≪P8≫ 2 門真のめざす教育とこれからの学校づくりの方向性 (2) 門真のめざすこれからの学校づくり ②これからの時代、これからの門真に対応した学校づくり	○新しい <u>教育内容</u> に対応した学校づくり <u>主体的で対話的な学び</u> といった新しい学習形態に <u>適応した、学ぶ意欲を高める様々な空間や機能のある学校</u>	○新しい <u>学びのあり方</u> に対応した学校づくり <u>主体的・対話的で深い学び</u> といった新しい <u>学びのあり方</u> に対応した、学ぶ意欲を高める様々な空間や機能のある学校

	ページ・項目	修正前	修正後
5	< P10 > 3 学校の再編にあたっての基本的な考え方 (1) 「人とのつながりを創っていく」ための検討 ①児童・生徒数を考慮した検討	児童・生徒数が今後も減少する見込みの中、子どもたちが多様な人間関係の中で学び、人とのつながりを創るためには、一定数の児童・生徒が共に学び、「横のつながり」の中で育つ環境が必要となる。	児童・生徒数が今後も減少する見込みの中、子どもたちが多様な人間関係の中で学び、人とのつながりを創るためには、一定数の児童・生徒が共に学び、「横のつながり」や「 <u>縦のつながり</u> 」の中で育つ環境が必要となる。
6	< P10 > 3 学校の再編にあたっての基本的な考え方 (1) 「人とのつながりを創っていく」ための検討 ②校区の広さ（人的資源を含む）を考慮した検討	これまで以上に「横のつながり」を豊かにすることや、 <u>地域のよき大人との出会いを増やし</u> 、「将来の自分とのつながり」を創っていくため、校区を広げることにより、地域の中で子どもたちを支える人材を確保するといった視点を検討する必要があるのではないか。	これまで以上に「横のつながり」を豊かにすることや、 <u>地域で生きる人々との出会いを増やし</u> 、「将来の自分とのつながり」を創っていくため、校区を広げることにより、地域の中で子どもたちを支える人材を確保するといった視点を検討する必要があるのではないかと。
7	< P11 > 3 学校の再編にあたっての基本的な考え方 (3) 「快適で楽しく過ごせる学校」に向けての検討	高度成長期の人口急増に合わせて、同時期に建設された門真の学校は、そのほとんどが建設後、既に40年以上が経過している現状があり、 <u>建替えや改修を検討する時期にもなっている。</u>	高度成長期の人口急増に合わせて、同時期に建設された門真の学校は、そのほとんどが建設後、既に40年以上が経過している現状があり、 <u>改修や建替えを行う時期に来ている。</u>
8	< P12 > 4 具体的提言 (1) 第四中学校校区の小・中学校及び中学校の再編について	校区の広さも比較的狭く、 <u>多様な仲間と共に人とつながる力を身に付けるという「横のつながり」を創ることが難しくなることが想定され、早急に対応する必要があります。</u> また、 <u>第四中学校と脇田小学校が隣接している点を活かし、より効果的な「縦のつながり」や「将来の自分とのつながり」を創るための手段の1つとして、小・中学校が一体となった施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）の設置についての検討が可能です。</u> そこで、 <u>第四中学校校区に脇田小学校、砂子小学校及び第四中学校を統合した新たな小中一貫校（義務教育学校）を創ることを提案します。</u>	校区の広さも比較的狭く、 <u>多様な仲間と共に人とつながる力を身に付ける「横のつながり」を創ることや、異年齢や異学年等との関わりによってできる「縦のつながり」を創ることが難しくなることが想定され、早急に対応する必要があります。</u> また、 <u>より効果的な「縦のつながり」や「将来の自分とのつながり」を創るための手段の1つとして、第四中学校と脇田小学校が隣接している点を活かし、施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）を設置することも期待できます。</u> そこで、 <u>隣接している脇田小学校及び第四中学校の敷地を活用し、現在、第四中学校校区にある脇田小学校、砂子小学校及び第四中学校を統合した施設一体型の小中一貫校（義務教育学校）を設置することを提案します。</u>

	ページ・項目	修正前	修正後
9	<p>《P13》 4 具体的提言 (2) 第四中学校校区、第五中学校校区の校区変更について</p>	<p>門真市では、東小学校においてのみ、2つの中学校（第四中学校、第五中学校）に分かれて進学するという現状があります。</p> <p>「縦のつながり」を効果的に創るためには、9年間の一貫性、系統性が大切であり、門真市が進めている小中一貫教育の観点からも、小学校単位で中学校の通学区域を定めることが望ましいと考えられます。 また、現実においても、東小学校から第四中学校に進学した生徒が第四中学校で小集団化する課題や、小中交流における日程調整等の難しさがあるといった意見も出されました。</p> <p>門真市全体で9年間を意識した系統的なカリキュラムに基づいた教育活動が展開される中、小学校は東小学校に通い、中学校入学時から新校に通学するということは、効果的な「縦のつながり」を創ることが難しくなり、児童・生徒の系統的な学びという点においても決して望ましい状況であるとは言えません。</p> <p>そこで、東小学校から2つの中学校に分かれて進学するという現状を見直し、江端町の一部（現東小学校・第四中学校校区）を新統合小中学校校区または東小学校・第五中学校校区とすることを提案します。</p>	<p>門真市では、東小学校においてのみ、2つの中学校に分かれて進学するという現状があります。東小学校に通っている児童の多くは第五中学校に進学しますが、<u>江端町から東小学校に通っている児童は第四中学校へ進学することとなっています。</u></p> <p><u>「人とのつながりを創っていく」という観点から、このように2つの中学校に分かれて進学することは、小学校6年間で創られた「横のつながり」が希薄になることが懸念されます。また、「縦のつながり」を効果的に創るためには、9年間の一貫性、系統性が大切であり、門真市が進めている小中一貫教育の観点からも、小学校単位で中学校の通学区域を定めることが望ましいと考えられます。</u></p> <p>そこで、東小学校から2つの中学校に分かれて進学するという現状を見直すため、現在、東小学校・第四中学校校区である江端町を、<u>具体的提言(1)の新統合小中学校校区、または東小学校・第五中学校校区のいずれかに統一することを提案します。</u></p>

	ページ・項目	修正前	修正後
10	≪ P 14 ≫ 4 具体的提言 (3) 第五中学校校区の再編について	<p>校区の広さも比較的狭く、<u>多様な仲間と共に人とつながる力を身に付けるという「横のつながり」を創ることが難しくなることが想定されます。</u></p> <p><u>そこで、こうした状況を改善するため、両校の改修あるいは建替えに合わせ、四宮小学校と北巢本小学校を統合した新小学校を創ることを提案します。</u></p> <p>これまでの学校分離の歴史等を踏まえ、現四宮小学校校地に配置することが好ましいと考えますが、<u>新たに国道163号線、第2京阪道路及び府道八尾枚方線といった幹線道路を横断することになる地域が生じるため、児童の通学上の安全性確保策については細心の注意を払うとともに、地域と共に十分に検討していくことが必要です。</u></p>	<p>校区の広さも比較的狭く、<u>多様な仲間と共に人とつながる力を身に付ける「横のつながり」を創ることや、異年齢や異学年等との関りによってできる「縦のつながり」を創ることが難しくなることが想定されます。</u></p> <p><u>そこで、両校の改修あるいは建替えに合わせ、四宮小学校と北巢本小学校を統合し、「門真のめざすこれからの学校づくり」に対応した小学校を配置することを提案します。</u></p> <p>これまでの学校分離の歴史等を踏まえ、現四宮小学校校地に配置することが望ましいと考えますが、<u>新たに国道163号や府道八尾枚方線といった幹線道路を横断することになる地域が生じるため、児童の通学上の安全性確保については細心の注意を払うとともに、地域と共に十分に検討していくことが必要です。</u></p>
11	≪ P 12～14 ≫ 4 具体的提言	第7回審議会資料（P12～14）参照	第8回審議会資料（P12～14）参照 <u>※内容の修正、補足に伴うレイアウトの修正</u>
12	≪ P 15 ≫ 5 これからの門真の学校づくりについての留意事項	(1) 通学上の安全確保 (2) 地域コミュニティの再編・充実 (3) 市全域のこれからの学校づくりに向けた継続的な議論 (4) 具体的提言の実現に向けた速やかな実施方針等の作成 (5) 地域みんなで考える学校づくり	(1) 具体的提言の実現に向けた速やかな実施方針等の作成 (2) 通学上の安全確保 (3) 地域コミュニティの再編・充実 (4) 地域みんなで考える学校づくり (5) 市全域のこれからの学校づくりに向けた継続的な議論 <u>※留意事項の記載順序の修正</u>
13	≪資料編 P17～21≫ 10 門真市立小・中学校の現状及び学級数見込み 11 児童・生徒数の推移と小・中学校の変遷	<u>10 門真市立小・中学校の現状及び学級数見込み</u> <u>11 児童・生徒数の推移と小・中学校の変遷</u>	<u>10 児童・生徒数の推移と小・中学校の変遷</u> <u>11 門真市立小・中学校の現状及び学級数見込み</u> <u>※資料掲載順序の入れ替え</u>
14	≪資料編 P22～23≫ 12 小・中学校区図及び校区面積、校区人口、校区児童生徒数一覧	第7回審議会資料（資料編）（P22）参照	<u>小学校区地図の差し替え</u>